

氏名	川 崎 伸 弘
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1576号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学第二専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Metastatic Potential of Lymphoma / Leukemia Cell Lines in SCID Mice is Closely Related to Expression of CD44. (悪性リンパ腫／白血病細胞株のSCIDマウスにおける転移能は CD44の発現と密接に関連している)
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 岡田 茂 教授 中山 睿一

学位論文内容の要旨

正常リンパ球の分布を制御しているホーミングレセプターや接着分子が悪性リンパ腫細胞の広がりにもどのように影響するのかを評価する目的で、24種の悪性リンパ腫／白血病細胞株をSCIDマウスに皮下移植し、各細胞株の転移形成能と接着分子の発現の関連を調べた。LFA-1、ICAM-1、CLA、VLA-4、L-セレクチン、CD44の6種の接着分子のうちL-セレクチンの発現はリンパ節転移を増加させ、CD44の発現はリンパ節転移と血行性臓器転移の双方を増加させた。また、正常型CD44(CD44s)に対する単クローン抗体であるHermes-3を用いてCD44発現細胞株の転移を抑制することができた。これらより、少なくともCD44sの発現は悪性リンパ腫／白血病のリンパ行性および血行性転移の双方において重要であると結論した。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は、リンパ球のホーミングレセプターや接着分子が悪性リンパ腫の臓器転移やリンパ節転移にもどのように影響するかを明らかにするために、24種の悪性リンパ腫／白血病由来の株化細胞をSCIDマウスに皮下移植し、各株化細胞における接着分子の発現と転位形成能との関連について検討したものである。検討した6種の接着分子のうち、L-セレクチン陽性株化細胞は陰性細胞に比べてリンパ節転移を優位に増加させ、後にCD44陽性株化細胞は陰性細胞に比べてリンパ節転移と血行性臓器転移の両方を優位に増加させた。さらに、CD44陽性細胞に対する単クローン抗体を皮下移植投与すると血行性臓器転移の阻止が可能であった。以上の成績から、本研究は、接着因子が悪性リンパ腫のリンパ行性および血行性転移に重要なことを明らかにし得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。